

生活支援体制づくり協議体会議（地域包括支援センターしんぱら  
担当圏域レベル）開催報告書

1 開催日時	令和 7 年 7 月 25 日（金） 10 時 00 分 ～ 12 時 00 分
2 開催場所	浜松市ふれあい交流センター浜北 2階大会議室
3 参加者	21名（委員15名、事務局3名、関係機関3名）
4 協議の内容	

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 委員紹介 ※出席者名簿をもとに自己紹介。

4. 議事

1) 令和7年度生活支援体制づくり協議体分科会報告について

① 亀玉地区の委員より説明 内容別紙（分科会報告資料）参照

② 浜名地区の委員より説明 内容別紙（分科会報告資料）参照

2) 令和6年度 生活支援体制づくり協議体会議の振り返り

内容別紙（令和4.5.6年度のしんぱら協議体）参照

（事務局）生活支援体制づくり協議体は、大まかに説明すると地域で皆さんが元気で暮らしていける体制を整えていきましようというところ。社会参加しやすい地域を作っていくというのが協議体の肝ではないかと思っている。

令和4年度から継続して移動支援サービスについて話し合いを行っている。補助金の制度や、他地区の事例の紹介を受けながら、この地区ではどのようにしていけば移動支援サービスが実施していけるかということを議論している。昨年度2回目からは実施案の作成をしている。

3) 移動支援実施案の作成について

内容別紙（移動支援サービス比較表）参照

（事務局）※別紙を基にこれまでの振り返り。

（会長）当初の目的は、この地区でどんな形であれば実施できるのかをまとめてみよう、ということになっているので、空欄部分を埋めていくため皆さんにご意見いただければ。

埋めたところがそれで決まりではなく、そこからまた、“ここはもう少し直した方がよい”等意見が出て、それを繰り返すことで集約していくのではないかと思う。

まず保険については、当初案では任意保険と記載してあるが、これは新たに保険に入る必要があるのではないかということだったか？

（事務局）北浜中地区でも加入している移動支援サービスを対象とした保険があるためそちらの加入を想定していたと思われる。しかし使う車両によっても変わってくるかと。

（会長）最小限の保証を受けるためには任意保険に加入した方がよいと思うがどうか。

意見がないようであればとりあえず任意保険を加入するような形で考えましょう。

担い手については、家事支援事業協力員、運転ボランティアと当初案のところに記載がある。

ボランティアとして手を挙げてくれる人がいるのか心配だという意見は前回も出ているが、いないかもしれないと尻込みをしているとやりたくても前に進めない。出てくることを前提にボランティアを募集することも必要かと思われるがご意見どうか。

(委員) ボランティアを募ってやってくれる人がいれば良いが、他地区でも高齢者が担っているところがあるのではないかと思う。持続性を考えると、若い人が申し出てくれるとありがたいが、その人がいつでもやってくれるかというとなかなか難しい。ボランティアが何人もいる、自営業で自由に動ける等であれば良いが…  
高齢者が運転をするとなるといずれ行き詰まると思うので、専門の運転手が担うのが良いのではないか。天竜地区は NPO 法人がやっている。ボランティアを募集するのは良いと思うが心づもりとしては、専門の人を雇うのが良いと考えている。

(委員) 前述委員と同じ考え方で、“高齢者が高齢者を送迎する”ここに問題があると思う。ボランティアは大切なものではあるが、タクシー会社やバス会社と提携する形をとっている地区もあると聞いている。

先日シニアクラブで県議をお呼びしてそのお話をしていただいた。そのようなものを取り入れて、タクシー会社やバス会社等専門家を雇っていく、それに対しての助成を市が行うと。しかし、市から丸投げ状態でこちらが受け取っているのではないか、行政がやるべき仕事ではないかと私は感じている。高齢者が高齢者を送迎するという事はこれからの課題になっていくと思われる。

(委員) おっしゃる通りだが、心配しだすときりが無いと思う。私も最初は無理でしようと思っていたが、少しずつできることから始めるのが大事だなと言う気持ちになってきた。遠くでは難しくても近くなら、走り慣れたところならできる等、地域で話したらそうしてくれる人がいると思う。良い事例を積み重ね、解決策を見出しながら、若い方にも“こんな支援をしている地区なんだ”と知ってもらい、自分もできることがあったら手伝いたいなと思ってもらえたら素晴らしいことなので、会長がおっしゃる通り少しずつ前に進んでいくのも大事なと思う。

(会長) 個人的な意見でいうと、確かに継続的に将来にわたって行うには専門の運転手が担う等の形でないといけないと思う。しかし、そうでなければできないとなるといつになるのか。先が見えないという部分がある。県議の話をも聞いて、あの形はいいなと思った。ちょうど参加されていた市議会議員にも動いてほしいという話もした。市議会からの提案もしてもらって、あるいは市への働きかけをしてもらって、抜本的な解決策を考えていただく必要がある。その動きは片方でしてもらって、かなり時間がかかると思う。その間、我々としてはどこまでならできると考えることが必要であり、この表の作成の目的でもある。皆さんの理想も分かるが、行政に考えてもらう間の繋ぎの期間だけでも、何か動ける策が必要なのではないかと個人的に考えている。しかし1人ではできないことで、皆さんが納得して動くものでないとこの活動が成り立たないので、どこまでなら納得できるのかを考えるため、この表を作っていければと思う。

今のような意見も大事で、それがあからこそどこまでならできると言う話ができるので、様々な意見を出してもらいながら、でもこれならできるのではないかと意見を出していただければ。

そういった意味で言うと、担い手については運転ボランティアを募集してみる、でどうでしょう。募集して誰も手が上がらなかつたら、その時に次の策を考える。まず募集をかけてみないと分からないこともあると思う。もし5人10人手を挙げてもらえれば後は動き出せるのではないか。自分の車で普段移動している範囲内で良ければ募集に応じたいという人がいればそれも一つかと。

(委員) ボランティアを募集するのは良いが、やはり募集するときどこまでは、と言う話が出ると思う。公設というのを将来的に頼むなら、住み分けをする必要がある。ボランティアはどこまでの支援をやるのか、それ以上超えたところは公設で

対応すると、ある程度事業の住み分けをしておくことでその次検討するときによりやすいのではないかと思う。ボランティアはどうしても限界があるため、住み分けをしておくことで頼みやすく募集もかけやすいと思う。

(委員) これは地区社協あるいは家事支援との関連の中で移動支援をどこまでやるかと言う話かと思っている。そもそも移動支援という言葉が公共交通にはそぐわない。浜松市は交通の空白地帯を作らないという認識でいるようだが、それは間違いだと思っている。地区同士を跨いで、通していく交通が本来は必要である。一方で全国がある方向に向かっているという話を聞く。県議が茅野市でやっている AI を使っている例で、あちこちで実施している。浜名地区で講演を頼んだら来てくれるとのことで、企画をしていた。それと別でまちづくり推進課の課長が勉強会を企画しているとの話もある。浜北地域分科会でも困っている高齢者がたくさんいる、それをほっておいていいのかと言う話をしている。しかし、じゃあ国や自治体が何とかしなさいと言っているのか。そこの危機感がある。今年の 10 月頃に浜北文化センターで勉強会を行うとのことで、それに皆参加してもらって、自分たちの地域に移動支援が本当に必要なのか、危ないからやらないでいいのか、じゃあどこまでならできると考える状況にあるのではという認識をもってもらおう。

本当は地域にどれくらいニーズがあるかが分かっている、それに対してこれだけの人が地域にいるのでボランティアを募集したいです、ということだと手を上げやすいと思う。運転してくれる人は少ないかもしれないが、最初は少なくとも段々共感してやってくれる人が増えていくと思う。家事支援もそうだった。高齢者の運転について話が出ているが、70 代で幼稚園バスや介護施設のバスを運転している人もいる。問題はなにかということ。運転技能や健康チェックをしっかりと行う等を前提にやっていくしかないと思う。ただそういう心配があるのも事実で、今移動支援の一番のネックはそこである。前は報酬の問題もあったが、法律が改正され、謝礼程度であれば問題ないと法令が変わった。厳密にするのであれば、75 歳以上はダメ等線を引いて、募集をかけるのはどうか。定期的に検査をしてもらうとかそういう仕組みを導入しているところもある。

今は移動支援という最低限自分たちでできるところの方法を検討しているが、それだけではなく、公共のバス等をどう絡めるかという段階にきている。家事支援の話でゴミ捨てるの依頼が多いといったが、それはオムツの処理も関係している。オムツは臭いもするし早めに処分をする必要があるため、1 人暮らしや高齢者世帯でも週 2 回ゴミ捨てるが必要になっている。これは単にゴミ捨てるの支援というわけではない。利用者の思いを汲むというところをどこまでやるか、これが移動支援サービスの考え方。そして浜松市に対しても要求を言って行かなきゃいけない。市が勉強会をやろうと動いてくれたことだけでもすごい進歩だが、動き出すのが何年後になるのかは分からない。今何とかしてほしいという人を、最小限でもいいからやってあげるということでも良いのではないかと思う。

地域の福祉活動として、移動支援を行う時にどこまでどうやるかという話だと思う。

(委員) どのくらいの利用者がいるか、調べる必要があるのでは。千寿会という老人会をやっているが、イベントがあっても自分で車を運転して行けない方を会の誰かが乗せていく。1 回乗せていくと距離関係なく、会から 500 円払うようにしている。コミュニティバスも動いているが乗る人が少ない。そのため移動支援を行うとなると、ボランティアを募集するときにも、どれくらいの人困っていて、どれくらいの利用者がいるのか把握したほうが良いかと思った。

行政にこの会から要望書を何回も出しに行く、声を出すことが大事。

(会長) この会でまとめているのも行政に何を要望したらよいかをはっきりさせるためにまとめている。

時間がないためここで終了するが、回数を増やして、この内容だけで会議を行えないか。

## 5.その他

(関係機関) 協議体の回数は年間 3 回以上となっているため回数を増やすことは支障ない。議員の皆さんの方からやりたいとおっしゃってもらえたことはとてもうれしい。それだけ真剣に取り組んでくださっていると感じている。

今日の話し合いの中で、新しい議員さんに協議体がどういうものなのか、今までの 3 年間の議論がどう進んできたのか、もう少し説明しておくべきだったと感じている。次回までにそれぞれの議員さんにお話をしてご理解いただくという風にしていきたいと思えます。よろしく申し上げます。

次回：8/22(金) 13：30～

### 5 今後の見通し・ 必要な対応

- ・次回開催日程8/22 (金) 13：30～15：00
- ・引き続き移動支援実施案の作成についての話し合いを進めていく。会議の日程も近いことから部会報告は実施をせず実施案の作成を進めていく。